

教育目標[達成目標]	
1. 保育実践にかかわる心理学の基礎知識を習得する。 2. 子どもが人との相互的にかかわりを通じて発達していくことを具体的に理解する。	
授業計画 (変更する場合があります)	
1 オリエンテーション 2 子どもの発達とは① 3 子どもの発達とは② 4 演習① 5 情緒の発達① 6 情緒の発達② 7 知覚と認知の発達① 8 知覚と認知の発達② 9 ことばの発達① 10 ことばの発達② 11 演習② 12 学習理論① 13 学習理論② 14 記憶のメカニズム 15 演習③	16 動機づけ理論① 17 動機づけ理論② 18 演習④ 19 対人関係と社会性① 20 対人関係と社会性② 21 対人関係と社会性③ 22 演習⑤ 23 知能と教育 24 心理検査による子どもの理解① 25 心理検査による子どもの理解② 26 発達の偏りと支援① 27 発達の偏りと支援② 28 まとめ 29 レポート作成 30 レポート作成、提出
評価方法	
1. レポートによる評価 2. 出席状況・受講態度による評価 (演習等の授業への積極的な参加は加点対象とします。)	
教材・準備	
・テキスト ・配布資料を綴るファイル ・参考文献は授業で適宜紹介する	

教育目標	
<p>教育の本質・機能に関する理論や知識を習得することを目標とします。現代社会に生きる子どもたちに必要な教育とは何か？という実践的な課題を念頭において学習を進めます。</p>	
授業計画（内容を変更する場合があります）	
<p>1 オリエンテーション・</p> <p>2 近代幼児教育思想の特質</p> <p>3 近代日本における幼児教育の成立と展開</p> <p>4 幼児教育の国際的動向</p> <p>5 日本における幼児教育の現状</p> <p>6 生涯教育のあり方</p> <p>7 教育評価・学力評価</p> <p>8 幼児教育に必要な連携</p> <p>9 個別課題調査活動について</p> <p>10 個別課題調査</p> <p>11 個別課題調査</p> <p>12 個別課題調査</p> <p>13 個別課題調査まとめ</p> <p>14 個別課題調査まとめ</p> <p>15 個別課題発表・討論</p>	<p>16 個別課題発表・討論</p> <p>17 個別課題発表・討論</p> <p>18 個別課題発表・討論</p> <p>19 個別課題発表・討論</p> <p>20 レポート作成について（課題1）</p> <p>21 レポート作成について（課題1）</p> <p>22 レポート作成について（課題2）</p> <p>23 レポート作成について（課題2）</p> <p>24 レポート作成について（課題2）</p> <p>25 テストに向けて</p> <p>26 テストに向けて</p> <p>27 テストに向けて</p> <p>28 グループワーク①教育関連のニュースより</p> <p>29 グループワーク②教育関連のニュースより</p> <p>30 グループワーク③教育関連のニュースより</p>
評価方法	
<p>1 レポート、科目終末試験による評価</p> <p>2 出席状況、受講態度による評価</p>	
教材・準備	
<p>・テキスト『保育のための教育原理』</p> <p>・配布資料（A4）を綴じるためのファイル</p>	

教育目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護を必要としている児童とその家族へ理解を深め、支援の姿勢、援助計画の立て方、援助の進め方、援助において活用する資源などの基本を学ぶ。 ・社会的養護の法体系や制度について学ぶ。 ・社会的養護の基本理念、原則について探求する。 ・保育者として養護の重要性と困難性について知る。 	
授業計画（変更する場合があります）全30回、30コマ	
1 オリエンテーション 2 社会的養護の理念と概念① 3 社会的養護の理念と概念② 4 社会的養護の歴史の変遷 5 子どもの人権擁護と社会的養護 6 社会的養護の基本原則 7 社会的養護における保育士等の倫理と責務① 8 社会的養護における保育士等の倫理と責務② 9 社会的養護の制度と法体系 10 社会的養護の仕組みと実施体系① 11 社会的養護の仕組みと実施体系② 12 社会的養護とファミリーソーシャルワーク① 13 社会的養護とファミリーソーシャルワーク② 14 社会的養護の対象と支援のあり方① 15 社会的養護の対象と支援のあり方②	16 家庭養護と施設養護① 17 家庭養護と施設養護② 18 家庭養護と施設養護③ 19 社会的養護にかかわる専門職① 20 社会的養護にかかわる専門職② 21 社会的養護に関する社会的状況① 22 社会的養護に関する社会的状況② 23 施設等の運営管理の現状と課題① 24 施設等の運営管理の現状と課題② 25 被措置児童等の虐待防止の現状と課題① 26 被措置児童等の虐待防止の現状と課題② 27 社会的養護と地域福祉の現状と課題 28 確認テスト 29 総合・まとめ① 30 総合・まとめ②
評価方法	
1 確認テスト 2 レポートによる評価 3 出席状況及び学習態度 4 大学ノートのノートテイク・感想	
教材・準備	
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「社会的養護 I」新基本保育シリーズ⑥ 中央法規 監修：公益財団法人児童育成協会 編集：相澤 仁・林 浩康 ・大学ノート1冊 ・保育指針、幼稚園教育要領、他プリント類 	

教育目標	
<p>自分の担当する子ども達の実態に即して、教育課程・保育計画を編成することができる基礎的な力を養うことを目標とします。教育課程・保育計画とは、保育の目的や目標を有効に達成するための内容を、子どもの心身の発達に応じて選定し、組織し、配列した、保育の計画の全体のことです。</p>	
授業計画（1回2時間の授業を15週行います。内容を変更する場合があります。）	
<p>1 オリエンテーション 2 幼児期の特徴① 幼児期の特徴② 3 教育課程の意義と方向 幼稚園教育と保育所保育 4 教育課程の基準① 教育課程の基準② 5 幼児教育課程の基本① 幼児教育課程の基本② 6 幼児教育課程の基本③ 幼児教育課程の基本④ 7 基礎となる幼児の姿① 基礎となる幼児の姿② 8 目的・目標・ねらい・内容① 目的・目標・ねらい・内容②</p>	<p>9 教育課程の編成と指導計画の作成① 教育課程の編成と指導計画の作成② 10 教育課程の評価① 教育課程の評価② 11 教育課程と指導計画の実例① 教育課程と指導計画の実例② 12 演習：模擬保育① 演習：模擬保育② 13 演習：模擬保育③ 演習：模擬保育④ 14 演習：模擬保育⑤ 演習：模擬保育⑥ 15 演習：模擬保育⑦ 演習：模擬保育⑧</p>
評価方法	
<p>1 出席状況、受講態度による評価 2 提出物の評価 3 模擬保育指導案の評価（模擬保育の前週までに提出） 4 模擬保育の評価</p>	
教材・準備	
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト『あたらしい幼児教育課程総論』 ・資料やワークシートを綴じるファイル（種類は自由） 	

教育目標	
<p>教育の理論や方法は多岐に渡ります。それが教育者の教育観や経験則，または地域や現代社会のニーズによっても分化されていきます。この授業では，みなさんが幼児教育に携わる上で，エビデンス（科学的根拠）に基づく基本原理を理解し，自分が良しとした方法論を説明・実践できる力を習得することを目標とします。</p>	
授業計画（内容を変更する場合があります）	
<p>1 オリエンテーション・課題調査について 2 課題調査活動 3 課題調査活動 4 課題調査活動 5 課題調査活動まとめ 6 課題調査活動まとめ 7 教育と保育の関係性（ゼミ形式） 8 見える保育と見えない保育①（ゼミ形式）自由 9 保育と一斉保育（ゼミ形式） 10 統合保育（ゼミ形式） 11 ポートフォリオ評価とドキュメンテーション（ゼミ形式） 12 学校と幼稚園の遊びの違い（ゼミ形式） 13 発達障害児の支援（ゼミ形式） 14 見える保育と見えない保育②（ゼミ形式）遊び 15 と学び（ゼミ形式）</p>	<p>16 ワーク：様々な教育実践① 17 ワーク：様々な教育実践② 18 ワーク：様々な教育実践③ 19 ワーク：様々な教育実践④ 20 レポート作成について 21 レポート作成について 22 レポート作成について 23 レポート作成について 24 テストに向けて 25 テストに向けて 26 テストに向けて 27 テストに向けて 28 「あたりまえ」を見直す① 29 「あたりまえ」を見直す① 30 多様な教育方法</p>
評価方法	
<p>1 レポート，科目終末試験による評価 2 出席状況，受講態度による評価</p>	
教材・準備	
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト『幼児教育の方法』 ・配布資料（A4）を綴じるためのファイル 	

教育目標	
<p>幼児教育に携わる者（幼稚園教諭・保育士）は、どんな方法で子ども達を支え、教え、導くのかを常に模索する必要があります。しかし、それ以上に大切なことは「どんな教師・保育者であるか」という「あり方」についてです。この科目では、その「あり方」を追求する手がかりを学びます。</p>	
授業計画（1週2コマの授業を15週行います。内容や順番を変更する場合があります。）	
<p>1 オリエンテーション 人権意識・専門性・自己研鑽</p> <p>2 教育とは何か 子どもとともに生きる</p> <p>3 日本における教師の歴史 現代社会の子ども</p> <p>4 幼稚園・保育所の生活と遊び 小学校での学習</p> <p>5 年代や職責による役割 教師集団の形成</p> <p>6 チーム援助 カウンセリングマインド</p> <p>7 教師をめぐる新しい動き 教師をめぐる法律</p>	<p>8 教育改革とこれからの教師 教職の専門性と研修</p> <p>9 社会人としての教師① レポート作成①</p> <p>10 レポート作成②</p> <p>11 社会人としての教師② 科目終末試験に向けて①</p> <p>12 心身の健康① 科目終末試験に向けて②</p> <p>13 心身の健康②</p> <p>14 プロ教師論①</p> <p>15 プロ教師論②</p>
評価方法	
<p>1 レポート，科目終末試験による評価</p> <p>2 出席状況，受講態度による評価</p> <p>3 授業後のミニレポートによる評価</p>	
教材・準備	
<p>・テキスト『改訂教職入門～未来の教師に向けて～』</p> <p>・配布資料（A4）を綴じるためのファイル</p>	

教育目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな生活と言葉獲得に向けた保育内容や方法を学ぶ。 ・言葉を育む適切な環境を理解し、保育者としてのかかわり方を身につける。 ・言葉のつまづきについて学び、その対応や支援の手がかりを知る。 ・言葉を豊かにする児童文化財や遊びの知識を深め、実践力を身につける。 	
授業計画（変更する場合があります）	
<ol style="list-style-type: none"> 1 言葉とは何か（言葉の意義と機能） 2 子どもの発達と言葉の発達 3 言葉の発達と環境 4 言葉を育む遊び（わらべうた・手遊び等） 5 領域「言葉」のねらい 6 領域「言葉」の内容 7 言葉を豊かに育む児童文化財① 8 言葉を豊かに育む児童文化財② 9 グループワーク1（視覚教材作り） 10 グループワーク2（視覚教材作り） 11 言葉と保育者のかかわり（0歳児） 12 言葉と保育者のかかわり（1歳児） 13 言葉と保育者のかかわり（2歳児） 14 言葉と保育者のかかわり（3歳児） 15 言葉と保育者のかかわり（4歳児） 	<ol style="list-style-type: none"> 16 言葉と保育者のかかわり（5歳児） 17 子どもの表現力と文字への気づき 18 小学校への接続を見据えた言葉の育ち 19 子どもと絵本 20 読み聞かせの実践と工夫① 21 読み聞かせの実践と工夫② 22 ワークショップ① 23 言葉のつまづきへの理解と対応 24 言葉のつまづきへの支援 25 言葉あそび「お話づくり」 26 言葉あそび「文字あそび」 27 ワークショップ② 28 言葉の育ちと心の育ち 29 考える力＝生きる力 30 学習のまとめ
評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1 レポート 2 演習参加態度（実践） 3 授業への参加態度（座学） 	
教材・準備	
<ul style="list-style-type: none"> ●教科書：新保育内容シリーズ〔新訂〕子どもと言葉 ●「幼稚園指導要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 ●その他 	

<幼児と人間関係> 講師：福田 智恵子

授業内容：

乳幼児の人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深める。領域「人間関係」の内容及び意義について学習し、他者理解を通して人として豊かな経験をすることの意義を学ぶ。

乳幼児が人として豊かに育つための保育者の役割を学習する。

形式：講義形式・実技

教育目標（到達目標）

- ・領域「人間関係」のねらいと内容について理解する。
- ・乳幼児期の人間関係の発達について理解する。
- ・乳幼児教育現場における「人間関係」の指導、援助のありかたを体得する。

授業計画（変更する場合があります）

1	オリエンテーション		
2	第1章 領域「人間関係」の社会的背景	16	第7章 子どもとの関わりを通じた幼児理解
3	第2章 子どもの発達と人間関係（1）	17	幼児理解と評価
4	子どもの発達と人間関係（2）	18	第7章 学びのふりかえり
5	第3章 領域「人間関係」のねらいと内容 「幼稚園教育要領」を中心に（1）	19	第8章 特別な支援を必要とする子どもの援助
6	領域「人間関係」のねらいと内容 「幼稚園教育要領」を中心に（2）	20	第8章 学びのふりかえり
7	領域「人間関係」のねらいと内容 「幼稚園教育要領」を中心に（3）	21	第9章 子ども家庭背景を踏まえた幼児教育・保育の 視点
8	第4章 保育者の関わり方と集団作り（1）	22	第9章 学びのふりかえり
9	保育者の関わり方と集団作り（2）	23	第10章 幼児教育・保育と小学校との接続の課題
10	第4章 学びのふりかえり	24	第10章 学びのふりかえり
11	第5章 対話から生まれる「協同的な学び」	25	第11章 幼児教育・保育における性をめぐる課題
12	第5章 学びのふりかえり	26	第11章 学びのふりかえり
13	第6章 幼児教育における子ども同士の関係	27	第12章 多文化共生社会における幼児教育・保育の課題
14	保育所保育指針「人間関係」学びのふりかえり	28	第12章 学びのふりかえり
15	前期試験	29	後期試験
		30	人間関係総集編

評価方法

- | | | |
|---|----------|-----|
| 1 | 試験(レポート) | 50% |
| 2 | 授業内の課題 | 30% |
| 3 | 受講態度 | 20% |

教材・準備

教材：幼児と人間関係－保育者をめざす－

「教科書」 金 俊華・垂見直樹 編著 福留留美・橋本翼 著

「幼児理解に基づいた評価」 文部科学省

「対話的・深い学びの保育内容「人間関係」 塚本美知子編著

「幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領改訂全資料」：汐見稔幸

「事例で学ぶ保育内容領域人間関係」：無藤隆監修・岩立京子

「社会情動的スキルを育む」 保育内容人間関係：無藤隆監修・古賀松香

準備

- ・プリント
- ・パワーポイント
- ・音楽CD楽器他

教育目標	
子供に自然体験をさせるための基礎知識を得るために、自らが佐渡の自然を知り、体験する。	
授業計画（変更する場合があります）	
1 幼児の自然体験の意義	1 6 両生類、爬虫類の分類
2 佐渡の立地、自然条件	1 7 環境問題
3 生物分類の基礎	1 8 環境問題
4 生物分類の基礎	1 9 危険な生物(動物)
5 植物分類の基礎	2 0 危険な生物(植物)、実習前指導
6 植物分類の基礎	2 1 野外実習
7 植物分類の復習、植物採集	2 2 //
8 腊葉標本作成	2 3 //
9 標本貼り付け	2 4 //
1 0 同定作業	2 5 //
1 1 動物分類の基礎	2 6 //
1 2 動物分類の基礎	2 7 //
1 3 昆虫の分類	2 8 //
1 4 昆虫の分類、屋外観察	2 9 単位認定試験
1 5 魚類の分類	3 0 //
評価方法	
授業への取り組み、提出物、実習レポート、テストなど	
教材・準備	
テキスト：柴崎正行・若月芳浩(編)『最新保育講座9 保育内容「環境」』ミネルヴァ書房	

教育目標(到達目標)	
実習において必要なもの(名札・自己紹介グッズ・その他制作物等)を主に制作し、実習の基本的な心構え等の内容も習得する。	
授業計画 (変更する場合があります)	
1 実習とは① 2 実習とは② 3 名札制作等 4 名札制作等 5 名札制作等 6 名札制作等 7 保育教材制作① 8 保育教材制作② 9 保育教材制作③ 10 保育教材制作④ 11 保育教材制作⑤ 12 保育教材制作⑥ 13 保育教材制作⑦ 14 保育実習とは 15 幼稚園実習とは	
評価方法	
授業態度・制作物等	
教材・準備	
授業ごとに配布する	

教育目標(到達目標)	
保育現場において必要な実践的技術(制作活動・絵本の読み聞かせ・社会的マナー・指導案作成・コミュニケーション術等)を習得する。また、各学年に合わせた基礎、応用的な保育実践内容を習得する。	
授業計画 (変更する場合があります)	
1 実践演習① 2 実践演習② 3 実践演習③ 4 実践演習④ 5 実践演習⑤ 6 実践演習⑥ 7 実践演習⑦ 8 実践演習⑧ 9 実践演習⑨ 10 実践演習⑩ 11 実践演習⑪ 12 実践演習⑫ 13 実践演習⑬ 14 実践演習⑭ 15 実践演習⑮	16 実践演習及び発表① 17 実践演習及び発表② 18 実践演習及び発表③ 19 実践演習及び発表④ 20 実践演習及び発表⑤ 21 実践演習及び発表⑥ 22 実践演習及び発表⑦ 23 実践演習及び発表⑧ 24 実践演習及び発表⑨ 25 実践演習及び発表⑩ 26 実践演習及び発表⑪ 27 実践演習及び発表⑫ 28 実践演習及び発表⑬ 29 実践演習及び発表⑭ 30 実践演習及び発表⑮
評価方法	
授業態度・制作物等	
教材・準備	
授業ごとに配布する	

教育目標	
<p>本講座では、短大通信教育部指定テキスト『Happy English for Childcare（保育のための基礎英語）』を活用し、英会話の基礎となる語彙や文法、表現等を習得するとともに、保育園や幼稚園で役に立つ英語表現を学びます。併せて、日常生活や海外旅行等で役立つ簡潔な表現等を即座に自分の口から発するトレーニングを行います。</p> <p>今や世界の共通語ともいえる便利な言語を気軽に楽しみながら、コミュニケーション能力の向上を目指します。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<p>1 ORIENTATION & Pre-Unit 2 UNIT 1/Hi, I' m Yuri Tanaka 3 UNIT 2/Where Is the Multi-purpose…. 4 UNIT 3/Good Morning. How Are You…. 5 UNIT 3/Good Morning. How Are You…. 6 UNIT 4/What Color Do You Like? 7 UNIT 4/What Color Do You Like? 8 UNIT 5/There' s a Ladybug on the Leaf 9 UNIT 5/There' s a Ladybug on the Leaf 10 UNIT 6/It' s Time to Play Outside 11 UNIT 6/It' s Time to Play Outside 12 UNIT 7/She Is Allergic to Eggs 13 UNIT 7/She Is Allergic to Eggs 14 前期総復習 15 前期総括テスト</p>	<p>16 UNIT 8/You Should Go to the Bathroom 17 UNIT 8/You Should Go to the Bathroom 18 UNIT 9/We Made Masks Today 19 UNIT 9/We Made Masks Today 20 UNIT 10/If It Rains, What Happens? 21 UNIT 10/If It Rains, What Happens? 22 UNIT 11/What Shall We Do Today? 23 UNIT 11/What Shall We Do Today? 24 UNIT 12/I Feel Feverish 25 UNIT 12/I Feel Feverish 26 UNIT 13/This Is Yuri from Cosmos…. 27 UNIT 13/This Is Yuri from Cosmos…. 28 UNIT 14/Thank You Very Much for … 29 後期総復習 30 後期総括テスト</p>
評価方法	
<p>1 出席状況、受講態度による評価 2 小テスト、面接テスト等による評価 3 前期及び後期総括テストによる評価</p>	
教材・準備	
<p>テキスト：『Happy English for Childcare』（九州短大通信教育部指定） 準備するもの：英和・和英辞典（電子辞書可）、ノート、配布プリント用ファイル</p>	

授業内容:テキストを元に PC の理論とワープロ・表計算の基礎を学ぶ	
形式:講義・演習形式	
教育目標(到達目標)	
IT 時代に働くものとして、避けて通れない情報処理能力を身に着け、専門職の一助として、 情報処理の基礎を理解し、必要な情報を表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて伝達できる能力を養う。	
授業計画(変更する場合があります)	
1 オリエンテーション・情報モラル[終末試験問題対象] 2 情報処理の基礎[終末試験問題対象] 3 情報処理の基礎[終末試験問題対象] 4 ソフトウェア・ネットワーク・コンピュータとネットワークの脅威[終末試験問題対象] 5 オフィススイートの導入と利用 6 Writer 文書の書式、文字入力・表(実習) 7 編集(実習) 8 編集(実習) 9 編集(実習) 10 編集(実習) 11 編集(実習) 12 日本語について 13 日本語について 14 Inpress 実習 15 Calc 表計算とは。MS と 00o との違い	16 ワークシートへの入力・設定 17 関数(実習) 18 関数(実習) 19 関数(実習) 20 関数(実習) 21 関数(実習) 22 関数(実習) 23 グラフ作成 24 OLE 実習 25 OLE 実習 26 課題「園だより」 27 課題「家計簿とエンゲル係数」 28 終末試験準備 29 終末試験 30 プレゼンテーション発表
評価方法(優先度)	
1 受講態度[スマホ操作は退席を命ずる場合も有り]・出席状況による評価 2 終末試験による評価 3 ミニ課題・課題による評価	
教材・準備	
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「情報処理入門」(必須) ・パソコン仕様: OS: Windows10 64bit 推奨、windows 7,8 は禁止 Windows 8.1 は在籍中にサポート外になるため非推奨。 ハードウェア:入学時には必要ありません。授業開始後説明します。 ノートパソコン可(仕様を満たせば中古も可) CPU= Core i3 以上推奨(AMD は同等性能)、メモリ:4GB 以上必須 マウス=必須(授業中は必ず接続のこと[有線・無線問わず(有線を推奨)]) ソフトウェア: Microsoft 社の製品および、有償商品ソフトウェアは授業では使いません。 ライセンス認証等が必要なものはサポートいたしません。 	

教育目標(到達目標)	
保育士になる為の基礎体力作り。また、体育を通じて保育現場で活かせる運動遊びを学びます。	
授業計画 (変更する場合があります)	
1 コミュニケーションゲーム 2 レクリエーション① 3 体力測定① 4 リズム体操① 5 リズム体操② 6 保育現場で活かせる運動遊び① 7 保育現場で活かせる運動遊び② 8 外遊び・ネイチャーゲーム① 9 外遊び・ネイチャーゲーム② 10 なわとび遊び 11 なわとびの指導方法 12 ボール遊び 13 ボール運動の指導方法 14 バスケットボール 15 ソフトバレーボール	16 フットサル 17 バトミントン 18 キックベース 19 器械種目① 20 器械種目② 21 マット運動 (補助の方法) 22 跳び箱 (補助の方法) 23 鉄棒 (補助の方法) 24 親子体操種目の紹介① 25 親子体操種目の紹介② 26 運動会種目の紹介 27 コーディネーショントレーニングの紹介① 28 コーディネーショントレーニングの紹介② 29 体力測定② 30 レクリエーション②
評価方法	
1 出席状況、受講態度による評価 2 体力面、動きの質、体力測定などによる評価	
教材・準備	
動きやすい服と室内靴	

<書写 I> 講師：川上 治美

教育目標	
<p>文字を正しく美しく書く習慣を身につけることを目標とします。そのために、姿勢や筆記具の持ち方、文字の形、点画の長短や方向、線の接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って形を整えて書けるよう学びます。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<p>1 オリエンテーション 2 文字の成り立ち（漢字・仮名） 3 姿勢、ペンの持ち方、箸の持ち方 4 筆順について 5 楷書の基本点画 6 楷書の字形 7 楷書の部首 8 楷書の書き方① 9 " ② 10 " ③ 11 ひらがな・カタカナ① 12 " ② 13 " ③ 14 " ④ 15 漢字かな交じり文①</p>	<p>16 " ② 17 " ③ 18 " ④ 19 " ⑤ 20 名前の書き方 21 はがき・封筒の宛名書き 22 履歴書の書き方① 23 " ② 24 手紙（礼状）① 25 " ② 26 " ③ 27 行書の書き方① 28 " ② 29 " ③ 30 佐渡の文化・芸術について（1）</p>
評価方法	
<p>1 出席状況、授業に対する積極性による評価 2 レポートや作品等提出物による評価 3 文字文化に関する興味・関心による評価</p>	
教材・準備	
<p>・「ペン習字の基礎」 石川芳雲著 教育図書 ・筆記用具（鉛筆、消しゴム、ボールペン、フェルトペン等）</p>	

教育目標	
<p>トレーニングの方法論，運動・スポーツ活動の効果，健康行動に影響を及ぼす心理社会的要因，運動・スポーツ時に起こる可能性の高い怪我や事故への応急処置法等について学び，健康維持・増進と生涯スポーツへの導入について学究する。運動・スポーツ場面から物や道具を使うことの身体の使い方や働きについて学修する。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<ul style="list-style-type: none"> 1 健康の3本柱をどう考えるか① 2 健康の3本柱をどう考えるか② 3 運動生理学からみた運動のねらい① 4 運動生理学からみた運動のねらい② 5 運動計画を考える① 6 運動計画を考える② 7 運動・スポーツから身体の動きを知る① 8 健康を維持・増進するための観点① 9 健康を維持・増進するための観点② 10 トレーニングの方法論① 11 トレーニングの方法論② 12 運動計画を実践する① 13 運動計画を実践する② 14 運動・スポーツから身体の動きを知る② 15 リスクとハザードを運動スポーツ場面で考える① 	<ul style="list-style-type: none"> 16 心肺蘇生法 17 救急法 18 エイズ共生時代を考える① 19 エイズ共生時代を考える② 20 運動計画を実践する③ 21 運動計画を実践する④ 22 嗜好品を考える（アルコールとタバコ）① 23 嗜好品を考える（アルコールとタバコ）② 24 集団スポーツから戦略を考える① 25 集団スポーツから戦略を考える② 26 集団スポーツから戦略を考える③ 27 リスクとハザードを運動スポーツ場面で考える② 28 まとめ 29 試験① 30 試験②
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 1 レポートによる評価 20% 2 授業参加態度による評価 20% 3 終末試験による評価 60% 	
教材・準備	
<p>・教材、資料は必要に応じて配布する。</p>	

教育目標	
<p>憲法は国家のしくみやあり方について定めている基本法です。日本国憲法の基本原理と体系を理解し、わが国で現実に行き起こっている憲法上の問題について事例をもとに一緒に考えながら、法学を専門としない学生が日本社会で生活していくうえで役に立つ法的知識を学び、人権感覚を養うことを目標とします。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<p>1 法学について（イントロダクション） 2 " 3 憲法総論 ～憲法を守らなければならないのは誰？～ 4 " 5 基本的人権（1）子どもの権利 6 " 7 基本的人権（2）自己決定権 8 " 9 基本的人権（3）プライバシー権 10 " 11 基本的人権（4）法の下での平等 12 " 13 基本的人権（5）思想・良心の自由 14 " 15 基本的人権（6）表現の自由 16 "</p>	<p>17 基本的人権（7）人身の自由 18 " 19 基本的人権（8）生存権 20 " 21 基本的人権（9）教育権 22 " 23 統治機構（1）民主政治のしくみ 24 " 25 統治機構（2）裁判所のしくみ 26 " 27 統治機構（3）憲法改正 28 " 29 試験 30 試験</p>
評価方法	
<p>1 平常点 50％ 2 試験 50％</p>	
教材・準備	
<p>レジュメは講義時に配付する 参考書 芦部信喜高橋和之補訂「憲法 第六版」岩波書店、2015 初宿正典ほか「いちばんやさしい憲法入門」有斐閣アルマ 駒村圭吾／編「プレステップ憲法」弘文堂 その他講義内で適宜紹介する。</p>	

教育目標	
<p>本授業の教育目標は、芸術活動の特に美術による造形表現に対する苦手意識の克服だ。表現したくなる環境の模索は、作りたいものを明確にし、制作工程をイメージしやすくする。この環境が確立されれば、発想から作品が生まれるまでのすべてが主体的な活動によるものとなる。制作意欲の第一歩を形成する本授業の内容は、美術を得意とする学生にも新たな気づきをもたらすことが期待される。保育者となって子どもの表現意欲をくみ取る前に、保育者になろうとする今、子どもに負けない表現者となることが望まれる。そのために、造形活動に対する得意・不得意という意識を消すことを目指す授業展開をしていく。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<p>1 ガイダンス 2 「描く」ということを理解する 3 立体造形活動 4 「描く子ども」の理解 5 絵画造形活動 6 立体造形活動 7 「描く子ども」の理解 8 「描く子ども」の理解 9 絵画造形活動 10 立体造形活動 11 「描く子ども」の理解 12 「造形表現環境」の理解 13 絵画造形活動 14 立体造形活動 15 観察実習</p>	<p>16 観察実習 17 「描く子ども」の理解 18 「造形表現活動」の理解 19 自己分析（総合課題） 20 自己分析（総合課題） 21 絵画造形活動 22 立体造形活動 23 「描く子ども」の理解 24 「造形表現活動」の理解 25 自己分析（総合課題） 26 自己分析（総合課題） 27 作品発表・採点会 28 作品発表・採点会 29 ふりかえり 30 まとめ</p>
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・作品評価（絵画造形、立体造形） 35% ・造形的理解に関するレポート 35% ・作品評価（総合課題） 30% 	
教材・準備	
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具（濃い鉛筆含む）、造形活動に必要な文房具、頭髪を束ねるもの、スマホなどの画像を記録できる機器、その他必要なものは随時連絡をする。 ・授業準備や必要教材は授業前に連絡する。 	

<音楽演奏 I> 講師：青木のぶ子

授業内容 子どもの歌やコールユーブンゲンを歌うことで音程の感覚を養う。ピアノは記録票に従い、バイエル・マーチ等を学生の力量に合わせた個人レッスンの形態で指導している

形式：演習形式

教育目標 (到達目標)

- 「声」について、イメージを深め発声法・表現法を習得する。
- 器楽(ピアノ伴奏)の基礎的な演奏法を理解し、演奏技術の向上を目指す
- 基礎的な楽典の理解
- 教育現場で必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やし、歌い示すことができる

授業計画 (変更する場合があります)

<p>前期 1音価の練習 2 5指の練習 3 ハ長調の練習 4 左手のコード奏 5 ちょうちょう 6 かえるの合唱 7 バイエル48番 8 バイエル66番 9 むすんでひらいて 10 いとまき 11 うさぎとかめ 12 虫の声 13 大きな栗の木の下で 14 やきいもグーチーパー 15 はをみがきましょう 16 手をたたきましょう 17 5の指の練習 18 ト長調の音階</p> <p>コールユーブンゲン 1・2・3・4・5・6 コンコーネ 1・2・3・4・5・6 「せんせいとおともだち」 「あくしゅでこんにちは」 「おべんとう」「おかえりのうた」</p>	<p>後期 19 左手コード奏 20 ちょうちょう 21 ビーマーチ 22 きらきらぼし 23 バイエル97番 24 バイエル73番 25 バイエル78番 26 5指の練習 27 ヘ長調の音階 28 左手のコード 29 チューリップ 30 ぶんぶんぶん 31 ジングルベル 32 おかたづけ 33 まつぼっくり 34 お正月 35 5指の練習 36 ニ長調の音階 37 左手のコード奏 38 とんとんとんとんひげじいさん 39 おててをあらいましょう 40 あくしゅでこんにちは 41 かたつむり 42 しゃぼんだま 43 ミッキーマウスのマーチ 44 メリーさんのひつじ 45 バイエル96番 46 バイエル80番 47 バイエル100番 コールユーブンゲン 7・8・9・10・11・12・13・14ab・15ab</p>
--	---

評価方法

- 実技試験(80%)
- 授業への積極的参加(20%)

教材・準備

音楽ピアノ教材・声楽教本

教育目標	
<ul style="list-style-type: none">・社会福祉が我々の生活にどう関わっているのか、どのようにすれば活用できるのかを、佐渡での現状を交えながら理解を深めていきます。・法制度や福祉サービス等の体系を学び、社会や保育分野との関連について考えていきます。・社会福祉から見えてくる、現状と課題について考えていきます。	
授業計画（変更する場合があります）	
1 オリエンテーション・社会福祉とは① 2 社会福祉とは②・レポートについて 3 社会福祉の歩み 4 社会福祉の制度 5 社会福祉従事者 6 生活課題と社会保障① 7 生活課題と社会保障②・レポート提出 8 こども家庭福祉	9 家庭福祉 10 ドメスティックバイオレンスと権利擁護 11 障害者と福祉 12 高齢者福祉 13 医療福祉 14 社会福祉施設 15 地域福祉・ボランティア・発表
評価方法	
1 出席状況、授業への参加意欲、受講態度による評価 2 レポート、小テストによる評価 3 発表による評価	
教材・準備	
テキスト「コメディカルのための社会福祉概論」	

教育目標	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもにかかわる諸課題を広く捉えその背景を探求する。とりわけ社会、家族、福祉の変化への理解を深める。 子ども家庭福祉の法制度、サービス等の体系と保育の関連性を学び、子どもや家族の問題を多面的に捉え、現状と課題について考えていくことを目標とする。 	
授業計画 (変更する場合があります)	
1 オリエンテーション 2 現代社会と子ども家庭福祉① 3 現代社会と子ども家庭福祉② 4 現代社会と子ども家庭福祉③ 5 子ども家庭福祉の歴史① 6 子ども家庭福祉の歴史② 7 子ども家庭福祉の歴史③ 8 子ども家庭福祉の理念と法律① 9 子ども家庭福祉に理念と法律② 10 子ども家庭福祉に理念と法律③ 11 子ども家庭福祉の機関と専門職① 12 子ども家庭福祉の機関と専門職② 13 児童福祉施設等① 14 児童福祉施設等② 15 子ども家庭福祉サービス①	16 子ども家庭福祉サービス② 17 子ども家庭福祉サービス③ 18 子ども家庭福祉サービス④ 19 保育サービス① 20 保育サービス② 21 保育サービス③ 22 少子化対策と子育て支援① 23 少子化対策と子育て支援② 24 少子化対策と子育て支援③ 25 総合・まとめ① 26 総合・まとめ② 27 科目終末試験準備 28 演習① 29 演習② 30 演習③
評価方法	
1 科目終末試験・レポートによる評価 2 出席状況、受講態度による評価 3 大学ノートのノートテイク・感想	
教材・準備	
テキスト <ul style="list-style-type: none"> 「児童家庭福祉」子どもと家庭を支援する 第3版 大津泰子 ミネルヴァ書房 大学ノート1冊 (社会的養護 I のノートが残っていれば、それでも可) 保育指針、幼稚園教育要領、他プリント類 	

教育目標	
<p>この授業では、初めに現代社会における保育の役割について、近年の新聞記事や統計資料等を紹介しつつ学びます。次に「保育所保育指針」および「幼稚園教育要領」の内容を参照しつつ「子どもの養護」や「子どもの最善の利益」「環境を通して行う保育」等の保育の基本的な概念を学びます。後半は古代から現代までの保育および幼児教育の思想的な流れと代表的な保育思想について学んだ後、近代から現代までの、わが国の保育の歴史について、画像資料を紹介しつつ学びます。テキストは使用しませんが、毎回の授業で資料とサブノートを配布します。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<p>1 保育原理で学ぶこと 2 保育士の仕事(1) 3 保育士の仕事(2) 4 保育をとりまく状況(1) 5 保育をとりまく状況(2) 6 子ども観の変遷(1) 7 子ども観の変遷(2) 8 保育の思想：コメニウスの思想 9 保育の思想ロックの思想 10 保育の思想：ルソーの思想 11 保育の思想：ペスタロッチの実践 12 保育の思想：オーウェンの実践 13 保育の思想：フレーベルの思想と実践 14 保育の思想：モンテッソーリ教育法 15 保育の思想：デューイの思想と実践</p>	<p>16 保育の思想：エレン・ケイの思想 17 保育の思想：倉橋惣三の思想(1) 18 保育の思想：倉橋惣三の思想(2) 19 保育の歴史：保育以前の生活と子育て 20 保育の歴史：幼児教育施設の誕生 21 保育の歴史：託児所の開設 22 保育の歴史：戦中戦後の保育 23 保育の歴史：戦後の保育制度(1) 24 保育の歴史：戦後の保育制度(2) 25 保育の歴史：現代の保育制度(1) 26 保育の歴史：現代の保育制度(2) 27 子育て支援と保育 28 子ども子育て支援新制度(1) 29 子ども子育て支援新制度(2) 30 試験</p>
評価方法	
<p>1. 授業内容に関連するレポートの提出（毎回） 2. 最終回に試験を実施</p>	
教材・準備	
<p>1. 教科書は使用しません。 2. 準備は必要ありませんが、授業内容を振り返るレポートを提出します。</p>	

教育目標	
<p>保育士には、子どもの保育をすることと、その家族の子育てを支えることの両輪の役割が求められます。現代は家族の形態も一様ではなく、また家族が抱える問題も複雑化・多様化しています。その中で、保育士としてできる限りのことをするための知識・技術を学びます。専門職として「知らないことは罪」なのです。</p>	
授業計画（内容を変更する場合があります）	
<p>1 家族支援が求められている背景 2 家族を支援するサービス 3 保育所における家族支援 4 家族援助における保育士の役割 5 在宅子育て家庭への支援 6 家族を支える専門機関と地域活動 7 「個別支援計画」の作成と活用① 8 「個別支援計画」の作成と活用② 9 「個別支援計画」の作成と活用③ 10 「個別支援計画」の作成と活用④ 11 「個別支援計画」の作成と活用⑤ 12 「個別支援計画」の作成と活用⑥ 13 「個別支援計画」の作成と活用⑦ 14 家族の形態・機能の変化 15 家族を取り巻く地域社会</p>	<p>16 家族援助に関わる法・制度 17 MY TREE ペアレンツプログラム① 18 MY TREE ペアレンツプログラム② 19 MY TREE ペアレンツプログラム③ 20 演習 21 演習 22 演習 23 レポート作成 24 レポート作成 25 演習 26 演習 27 テストに向けて 28 テストに向けて 29 ジェノグラムの書き方① 30 ジェノグラムの書き方②</p>
評価方法	
<p>1 レポート，科目終末試験による評価 2 出席状況，受講態度による評価</p>	
教材・準備	
<p>・テキスト『よくわかる家庭支援論』 ・配布資料（A4）を綴じるためのファイル</p>	

教育目標	
<p>インクルーシブを和訳すると「包括的な」という意味になります。障害のある子どもを全体の中に包み込んで育てていくという考え方は、「障害者の権利条約」にも記されています。2年次では理論編として、様々な障害特性の理解と、その困難さに寄り添う保育やユニバーサルデザインについて学びます。3年次の「インクルーシブ教育・保育実践」に向けて、確かな知識と考え方を身に付けていきましょう。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<p>1 オリエンテーション 2 そもそも障害とは？ 3 知的障害① 4 知的障害② 5 注意欠如/多動性障害 6 自閉症スペクトラム障害① 7 自閉症スペクトラム障害② 8 自閉症スペクトラム障害③ 9 自閉症スペクトラム障害④ 10 学習障害 11 運動機能障害 12 ダウン症候群 13 感覚障害 14 選択性緘黙 15 反応性愛着障害</p>	<p>16 反抗挑戦性障害 17 高次脳機能障害 18 二次障害の予防と回復 19 障害のある子への保育・援助の基本 20 応用行動分析① 21 応用行動分析② 22 応用行動分析③ 23 複数の仮説をもつ 24 構造化・支援ツール 25 ペアレントトレーニング 26 トークンエコノミーシステム 27 感覚統合・感覚遊び 28 効果的なしかり方 29 個別指導の極意 30 非常に難しい「差別」の話</p>
評価方法	
<p>1 出席・授業態度を毎時間評価する。 2 受講後のリアクション（書く、話す）を評価する。</p>	
教材・準備	
<p>・テキスト『よくわかる障害児保育』 ・資料やワークシートを綴じるファイル（種類は自由）</p>	

<子どもの食と栄養> 講師：市橋佳代

教育目標(到達目標)	
○栄養に関する基礎的知識を学び、子どもの食生活の意義を理解する ○講義実習を通して、妊娠授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の成長・発達を学ぶ	
授業計画 (変更する場合があります) 2限連続で行います	
1 オリエンテーション 子どもの健康と食生活の意義 2 発育・発達の基礎知識 3 栄養に関する基礎知識① 4 栄養に関する基礎知識② 5 子どもの発育・発達と食生活① 6 子どもの発育・発達と食生活② 7 子どもの発育・発達と食生活③ 8 子どもの発育・発達と食生活④ 9 子どもの発育・発達と食生活⑤ 10 子どもの発育・発達と食生活⑥ 11 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 12 障がいがある子どもの食と栄養 13 児童福祉施設における食と栄養 14 食育の基本と内容方法 15 まとめ	
評価方法	
出席状況・講義・実習態度・提出課題等により総合的に評価する	
教材・準備	
参考テキスト ・「子どもの食と栄養」北大路書房	

教育目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健全な心身の発達を促す保育活動を目指して、一人ひとりの子どもが健康であるための意義や成長・発達を支援する能力を身につける。 ・子どもの疾病の予防と対策、精神保健からの健康保持増進活動について理解し、保育環境における衛生管理、安全対策及び危機管理、感染予防と健康管理の基本を習得する。 	
授業計画（変更する場合があります）	
1 子どもの疾病と保育(1)①特徴、呼吸器 2 子どもの疾病と保育(1)②感染症、消化器 3 子どもの疾病と保育(1)③循環器、生殖 4 子どもの疾病と保育(1)④中枢神経、血液 5 子どもの疾病と保育(1)⑤内分泌等 6 子どもの疾病と保育(1)⑥その他 7 子どもの疾病と保育(2)① 8 子どもの疾病と保育(2)② 9 子どもの疾病と保育(2)③ 10 子どもの疾病と保育(2)④健康診査 11 子どもの疾病と保育(2)⑤健康診査 12 環境整備・事故防止と安全管理①保健 13 環境整備・事故防止と安全管理②衛生管理 14 環境整備・事故防止と安全管理③救急処置 15 環境整備・事故防止と安全管理④安全教育	16 環境整備・事故防止と安全管理⑤災害備え 17 環境整備・事故防止と安全管理⑥救急処置 18 保健活動の計画及び評価① 19 保健活動の計画及び評価②計画の作成 20 保健活動の計画及び評価③計画の作成 21 保健活動の計画及び評価④評価 22 保健活動の計画及び評価⑤評価 23 保健活動の計画及び評価⑥発表 24 現場で役立つ救急時の対応① 25 現場で役立つ救急時の対応② 26 現場で役立つ救急時の対応③ 27 現場で役立つ救急時の対応④ 28 現場で役立つ救急時の対応⑤事例検討 29 現場で役立つ救急時の対応⑥事例検討 30 終末試験
評価方法	
1 終末試験による評価 2 レポートによる評価 3 出席状況、受講態度による評価	
教材・準備	
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「よくわかる子どもの保健 新版」竹内義博・丸尾良浩編 ミネルヴァ書房 ・参考書 適宜紹介または、資料プリント配付 ・新生児人形、油性ペン等 	

教育目標	
<p>子どもやその家族・家庭を支援するために必要な知見を習得することを目指します。生涯発達に関する心理学、家族・家庭の意義や機能、現代の社会状況、子どもの精神保健等について学ぶことと併せて、事例検討を通して実践的な援助スキルについて習得することも目標とします。</p>	
授業計画（内容を変更する場合があります）	
<ul style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 乳幼児期から学童期前期までの発達① 3 乳幼児期から学童期前期までの発達② 4 学童期後期から青年期までの発達① 5 学童期後期から青年期までの発達② 6 成人期・老年期までの発達 7 家族・家庭の意義と機能 8 親子関係・家族関係の理解① 9 親子関係・家族関係の理解② 10 子育ての経験と親としての育ち 11 子育てを取り巻く社会的状況 12 ライフコースと仕事・子育て 13 多様な家庭とその理解① 14 多様な家庭とその理解② 15 特別な配慮を要する家庭① 	<ul style="list-style-type: none"> 16 特別な配慮を要する家庭② 17 子どもの生活・生育環境とその影響 18 子どもの心の健康に関わる問題 19 ワーク（インシデントプロセス法）① 20 ワーク（インシデントプロセス法）② 21 ワーク（インシデントプロセス法）③ 22 ワーク（インシデントプロセス法）④ 23 ワーク（インシデントプロセス法）⑤ 24 ワーク（インシデントプロセス法）⑥ 25 ワーク（インシデントプロセス法）⑦ 26 ワーク（インシデントプロセス法）⑧ 27 ワーク（インシデントプロセス法）⑨ 28 ワーク（インシデントプロセス法）⑩ 29 学びのまとめ① 30 学びのまとめ②
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 1 出席状況、受講態度による評価 2 制作物・発表内容に対する評価 	
教材・準備	
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト『子ども家庭支援の心理学』 ・配布資料（A4）を綴じるためのファイル 	

教育目標[達成目標]	
1. 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。 2. 生涯発達の視点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育者として重要な「見通し」をもった発達の支援が実践できるようになることを目標とする。	
授業計画 (変更する場合があります)	
1 オリエンテーション 2 子どもの発達と保育 3 発達心理学の理論① 4 発達心理学の理論② 5 言語の発達① 6 言語の発達② 7 感情・自己意識の発達① 8 感情・自己意識の発達② 9 身体・運動機能の発達① 10 身体・運動機能の発達② 11 演習① 12 胎児期・乳児期① 13 胎児期・乳児期② 14 乳児期① 15 乳児期②	16 児童期① 17 児童期② 18 思春期・青年期① 19 思春期・青年期② 20 演習② 21 成人期 (初期・中期) ① 22 成人期 (初期・中期) ② 23 成人期 (老年期) ① 24 成人期 (老年期) ② 25 現代社会と発達① 26 現代社会と発達② 27 演習③ 28 まとめ 29 レポート作成 30 レポート作成、提出
評価方法	
1. レポートによる評価 2. 出席状況・受講態度による評価 (講義への積極的な参加は加点対象とする)	
教材・準備	
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「保育の心理学」 ・配布資料を綴るファイル ・参考文献は授業で適宜紹介する 	

教育目標	
<p>本科目では、子どもの心や保育士の役割についての理解を深めることを通して、子どもや家庭への支援スキルの基礎を学ぶことを目標とします。毎時間、傾聴トレーニングや構成的グループエンカウンター等を行います。</p>	
授業計画（内容を変更する場合があります）	
<ul style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション, 心理療法 2 カウンセリングスキル 3 閉じた質問・開かれた質問 4 傾聴について 5 養育困難家庭への支援 6 虐待リスクのある家庭への支援 7 AD/HD児の親支援 8 ASD児の親支援 9 障害のある子をもつ親への支援 10 発達障害のある子をもつ親への支援 11 精神疾患のある親への支援 12 構成的グループエンカウンター① 13 構成的グループエンカウンター② 14 構成的グループエンカウンター③ 15 構成的グループエンカウンター④ 	<ul style="list-style-type: none"> 16 チーム援助 17 嫁姑問題を傾聴する 18 モンスターペアレント 19 おやっ?という親への支援 20 レポート作成 21 レポート作成 22 レポート作成 23 レポート作成 24 テストに向けて 25 テストに向けて 26 テストに向けて 27 テストに向けて 28 傾聴練習① 29 傾聴練習② 30 傾聴練習③
評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 1 レポート, 科目終末試験による評価 2 出席状況, 受講態度による評価 	
教材・準備	
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト『子育て支援カウンセリング』 ・A4資料を綴じるためのファイル ・大学ノート 	

教育目標(到達目標)	
保育現場において必要な実践的技術(制作活動・絵本の読み聞かせ・社会的マナー・指導案作成・コミュニケーション術等)を習得する。また、各学年に合わせた基礎、応用的な保育実践内容を習得する。	
授業計画(変更する場合があります)	
1 実践演習① 2 実践演習② 3 実践演習③ 4 実践演習④ 5 実践演習⑤ 6 実践演習⑥ 7 実践演習⑦ 8 実践演習⑧ 9 実践演習⑨ 10 実践演習⑩ 11 実践演習⑪ 12 実践演習⑫ 13 実践演習⑬ 14 実践演習⑭ 15 実践演習⑮	16 実践演習及び発表① 17 実践演習及び発表② 18 実践演習及び発表③ 19 実践演習及び発表④ 20 実践演習及び発表⑤ 21 実践演習及び発表⑥ 22 実践演習及び発表⑦ 23 実践演習及び発表⑧ 24 実践演習及び発表⑨ 25 実践演習及び発表⑩ 26 実践演習及び発表⑪ 27 実践演習及び発表⑫ 28 実践演習及び発表⑬ 29 実践演習及び発表⑭ 30 実践演習及び発表⑮
評価方法	
授業態度・制作物等	
教材・準備	
授業ごとに配布する	

教育目標	
<p>「ことば」は自分と相手との距離を理解し、より良い関係を築いていこうとするときに不可欠な道具であり、「文章術」は「ことば」をより有効に活用するための方法であることを理解する。 ここでは作文のための基礎を習得し、著名作家の名作に触れた上で、小論文作成に取り組む。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 文の成立①（文字・語・文節・記号）</p> <p>3 文の成立②（文節の関係）</p> <p>4 悪文訂正①（文体・略語・口語と文語）</p> <p>5 悪文訂正②（中止法・記号・過剰表現）</p> <p>6 悪文訂正③（漢字・語句・重複表現）</p> <p>7 原稿用紙を使う①（ㄎ書き原稿用紙）</p> <p>8 原稿用紙を使う②（ヨコ書き原稿用紙）</p> <p>9 段落・構成①（三段構成と四段構成）</p> <p>10 段落・構成②（構成分析）</p> <p>11 作文と発表①（課題確認・作成開始）</p> <p>12 作文と発表②（原稿完成）</p> <p>13 作文と発表③（発表1）</p> <p>14 作文と発表④（発表2）</p> <p>15 文章作成の基礎 まとめ</p>	<p>16 夏目漱石① 小説「文鳥」 i</p> <p>17 夏目漱石② 小説「文鳥」 ii</p> <p>18 夏目漱石③ 小説「文鳥」 iii</p> <p>19 夏目漱石④ 小説「文鳥」 iv</p> <p>20 夏目漱石⑤ 小説「文鳥」 v</p> <p>21 芥川龍之介① 小説『蜜柑』 i</p> <p>22 芥川龍之介② 小説『蜜柑』 ii</p> <p>23 芥川龍之介③ 小説『蜜柑』 iii</p> <p>24 横光利一① 小説『蠅』 i</p> <p>25 横光利一② 小説『蠅』 ii</p> <p>26 横光利一③ 小説『蠅』 iii</p> <p>27 横光利一④ 小説『蠅』 iv</p> <p>28 小論文実作①（課題の確認）</p> <p>29 小論文実作②（ブレインストーミング）</p> <p>30 小論文実作③（原稿作成・提出）</p>
成績評価方法	
<p>1 出席状況・受講態度による評価</p> <p>2 毎時間のリアクションシートによる評価・ファイルの提出</p> <p>3 小論文など提出物による評価</p> <p>4 毎時間実施する小テストの結果</p>	
教材・準備	
<p>[毎時間必要なもの]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材，資料を綴じるためのA4ファイル（通年で使用する） ・国語辞典（電子辞書でも可） <p>[必要に応じて準備を指示するもの]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A4 タテ書き 400字詰め原稿用紙・A4 ヨコ書き 400字詰め原稿用紙・A4 レポート用紙 ・全国漢字能力検定試験受験用問題集 	

教育目標	
保育士になる為の基礎体力作り。また，体育を通じて保育現場で活かせる運動遊びを学びます。	
授業計画（変更する場合があります）	
1 幼児期の運動の重要性を再確認	16 フットサル
2 スキャモンの発育曲線	17 バトミントン
3 体力測定①	18 キックベース
4 リズム体操①	19 器械種目①
5 リズム体操②	20 器械種目②
6 保育現場で活かせる運動遊び①	21 マット運動（補助の方法）
7 保育現場で活かせる運動遊び②	22 跳び箱（補助の方法）
8 外遊び・ネイチャーゲーム①	23 鉄棒（補助の方法）
9 外遊び・ネイチャーゲーム②	24 親子体操種目の紹介①
10 なわとび遊び	25 親子体操種目の紹介②
11 なわとびの指導方法	26 運動会種目の紹介
12 ボール遊び	27 コーディネーショントレーニングの紹介①
13 ボール運動の指導方法	28 コーディネーショントレーニングの紹介②
14 バスケットボール	29 体力測定②
15 ソフトバレーボール	30 保育現場での運動は何ができるのか
評価方法	
1 出席状況、受講態度による評価	
2 体力面、動きの質、体力測定などによる評価	
教材・準備	
動きやすい服と室内靴	

<書写Ⅱ> 講師：川上 治美

教育目標	
<p>「書道Ⅰ」での学習をふまえ、「書道Ⅱ」では主に筆ペンを用いて日常生活で生かせるよう、いろいろな形式で実用書を学びます。また、簡単な作品制作等を行い、創作の喜びを体験します。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<p>1 オリエンテーション 2 筆ペンの特徴、持ち方、使い方 3 カタカナ練習 4 漢字練習練習（漢数字、算用数字） 5 " (地名) 6 " (苗字、名前) 7 ひらがな練習① 8 " ② 9 日常の実例（熨斗袋・慶事） 10 " (" ・一般) 11 " (" ・弔事) 12 " (和封筒) 13 " (はがき) 14 " (招待状の返信) 15 年賀状を書く①</p>	<p>16 年賀状を書く② 17 暑中見舞いを書く 18 一筆箋を書く 19 文例練習 ① 20 " ② 21 " ③ 22 " ④ 23 賞状を書く 24 掲示物を書く 25 行書練習① 26 " ② 27 " ③ 28 小品の制作 29 " ② 30 佐渡の文化・芸術について（2）</p>
評価方法	
<p>1 出席状況、授業態度、そして授業に対する積極性による評価 2 レポートや作品等提出物による評価 3 文字文化に関する興味・関心による評価</p>	
教材・準備	
<p>・「筆ペン字練習帳」 和田康子 新星出版社 ・筆ペン、サインペン、フェルトペン等 ・写経用紙、半紙等</p>	

<美術> 講師：臼杵 洋子

教育目標(到達目標)	
色や形、ものにかかわる造形表現のあそびが、一人一人の子どもの興味・関心に合わせ、発達の実情に応じた活動となるように、保育者として必要とされる絵画、立体造形、色彩に関する基礎・基本を理解し、表現活動の実践を学ぶ。	
授業計画 (変更する場合があります)	
1 造形あそびについて、造形(絵)の基礎・基本	9 テープをはったり、はがしたりハサミで チョコチョコキ
2 描画材料と表現方法、絵具で色づくり	10 小麦粉粘土であそぼう
3 絵具で色づくり	11 マーブリングであそぼう
4 絵具で色づくり、フェルトペンでかこう	12 牛乳パックとビニールテープであそぼう
5 パス・コンテでかこう	13 人物・動物・花をかこう
6 墨汁でかこう、色の組み合わせ	14 版画をつくろう
7 環境構成・導入の工夫、幼児画の特徴	15 鑑賞
8 造形あそびの実践、紙管の中に入れてあそぼう	
評価方法	
1 制作した作品の評価 2 出席状況、受講態度による評価	
教材・準備	
・毎時間の資料(プリント)…(学習内容) ・材料、用具	

教育目標(到達目標)	
実習において必要な日誌の記入方法や指導案等の作成方法、実習生の心得えを習得等する。また、各学年に合わせた基礎・応用的な実習内容を習得する。	
授業計画 (変更する場合があります)	
1 日誌の書き方①	16 実践演習①
2 日誌の書き方②	17 実践演習②
3 日誌の書き方③	18 実践演習③
4 日誌の書き方④	19 実践演習④
5 日誌の書き方⑤	20 実践演習⑤
6 日誌の書き方⑥	21 実践演習⑥
7 日誌の書き方⑦	22 実践演習⑦
8 指導案の書き方⑧	23 実践演習⑧
9 指導案の書き方⑨	24 実践演習⑨
10 指導案の書き方⑩	25 実践演習⑩
11 指導案の書き方⑪	26 実践演習⑪
12 指導案の書き方⑫	27 実践演習⑫
13 指導案の書き方⑬	28 実践演習⑬
14 指導案の書き方⑭	29 実践演習及⑭
15 指導案の書き方⑮	30 実践演習及⑮
評価方法	
授業態度・制作物等	
教材・準備	
授業ごとに配布する	

教育目標(到達目標)	
<p>○「声」についてイメージを深め、発声法・表現法を習得する。</p> <p>○器楽(ピアノ伴奏)の基礎的な演奏を理解し、演奏技術の向上を目指す</p> <p>○基礎的な楽典の理解</p> <p>○教育現場で必要な声楽曲・弾き歌いのレパートリーを増やし歌い示すことができる</p>	
授業計画 (変更する場合があります)	
<p>前期</p> <p>1 チューリップ</p> <p>2 ぶんぶんぶん</p> <p>3 おはながわらった</p> <p>4 先生とおともだち</p> <p>5 こどりのうた</p> <p>6 こいのぼり</p> <p>7 めだかの学校</p> <p>8 とけいのうた</p> <p>9 かたつむり</p> <p>10 あめふりくまのこ</p> <p>11 あまだれぽったん</p> <p>12 たなばたさま</p> <p>13 しゃぼんだま</p> <p>14 トマト</p> <p>15 うみ</p> <p>16 水あそび</p> <p>17 おばけなんてないさ</p>	<p>後期</p> <p>18 虫の声</p> <p>19 つき</p> <p>20 とんぼのめがね</p> <p>21 大きな栗の木の下で</p> <p>22 山の音楽家</p> <p>23 いもほりのうた</p> <p>24 やきいもグーチーパー</p> <p>25 どんぐりころころ</p> <p>26 まつぼっくり</p> <p>27 たき火</p> <p>28 あわてんぼうのサンタ</p> <p>29 きよしこの夜</p> <p>30 お正月</p> <p>31 豆まき</p> <p>32 雪のペンキやさん</p> <p>33 うれしいひなまつり</p> <p>34 思い出のアルバム</p> <p>35 一年生になったら</p>
評価方法	
<p>実技試験(80%)</p> <p>授業への積極的参加(20%)</p>	
教材・準備	
<p>音楽・ピアノ教本・声楽教本</p>	

教育目標	
<p>保育現場で役立つ技術を演習を通して学ぶ。 保育を展開するにあたり、保育士に必要な視点、関わり方などを理解する。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<p>1. オリエンテーション ; 2. 教材の使い方 3. 環境（学校周辺探索） 4. 環境（おたより作り） 5. 環境（おたより作り/正面玄関掲示） 6. 環境（自然物を使った制作） 7. 環境（自然物を使った制作/玄関展示） 8. レポート作成 9. ①演習、振り返り 10. ②演習、振り返り 11. ③演習、振り返り 12. ④演習、振り返り 13. ⑤演習、振り返り 14. ⑥演習、振り返り 15. レポート作成・振り返り</p>	<p>16. ①音楽表現 17. ②音楽表現 18. ①演習・振り返り 19. ②演習・振り返り 20. ③演習・振り返り 21. ④演習・振り返り 22. ⑤演習・振り返り 23. ⑥演習・振り返り 24. レポート作成 25. ①言葉遊び 26. ②言葉遊び 27. ①保育者として 28. ②保育者として 29. グループワーク 30. まとめレポート作成</p>
評価方法	
<p>1. 出欠状況、受講態度などによる評価 2. 実践による評価 3. レポートによる評価</p>	
教材・準備	
<p>A4を綴じるファイル 随時、資料配布</p>	

教育目標	
<p>乳児期は人生の基礎を築く重要な時期である。この時期に乳児が「安心感」を抱いて毎日を過ごすことが、将来の健全な心とからだを形成する上で非常に大切である。そのためには、保育者が乳児一人ひとりを愛情豊かに受容し、心身ともに健全に成長、発達できるように日々の細心の配慮をもって保育にあたることが重要となる。</p> <p>保育者として乳児期の発育・発達の過程や特性を学び、保育のあり方や役割を理解、修得することを目標とする。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 乳児保育の必要性と成り立ち</p> <p>3 乳児保育に関する制度、法律</p> <p>4 保育所保育指針の目的、内容</p> <p>5 保育所保育指針における乳児保育のポイント</p> <p>6 人生基礎としての乳児期</p> <p>7 乳児のこころの発達</p> <p>8 乳児のこころの発達</p> <p>9 乳児のからだ①</p> <p>10 乳児のからだ②</p> <p>11 乳児保育における複数担任制</p> <p>12 デイリープログラム：0歳児</p> <p>13 デイリープログラム：1歳児</p> <p>14 デイリープログラム：2歳児</p> <p>15 保護者との連携について</p>	<p>16 発達の遅れ①</p> <p>17 発達の遅れ②</p> <p>18 乳児とのふれ合いの基本</p> <p>19 授乳の仕方とその準備</p> <p>20 乳児の排泄への対応</p> <p>21 離乳食の基礎知識</p> <p>22 アレルギー対応</p> <p>23 沐浴・清拭のしかた</p> <p>24 保育環境の衛生管理</p> <p>25 かみつき・ひっかきへの対応</p> <p>26 乳児保育における安全管理①</p> <p>27 乳児保育における安全管理②</p> <p>28 連絡帳、クラス便りの書き方</p> <p>29 遊びのアイデアと歌遊び、ふれあい遊びまとめ</p> <p>30 :試験</p>
評価方法	
<p>1 出席状況と受講態度</p> <p>2 課題レポート提出状況</p> <p>3 試験</p> <p>上記に基づいて総合的に評価する。</p>	
教材・準備	
<p>テキスト</p> <p>はじめて学ぶ乳児保育 志村聡子編（同文書院）</p> <p>保育所保育指針解説書 厚生労働省</p> <p>参考図書</p> <p>必要に応じて指示、配布する。</p>	

教育目標[達成目標]	
乳幼児の発達過程を、認知、情動、対人関係、遊びの発達などを通して理解し、保育者としての適切な子どもへのかかわり方を習得することを目標とする。	
授業計画（変更する場合があります）	
1 オリエンテーション 2 乳幼児のこころを理解するとは① 3 乳幼児のこころを理解するとは② 4 子どもの誕生と母子相互作用① 5 子どもの誕生と母子相互作用② 6 乳幼児の知覚 7 乳幼児の情動① 8 乳幼児の情動② 9 演習① 10 記憶の発達① 11 記憶の発達② 12 言語機能と会話の発達① 13 言語機能と会話の発達② 14 乳幼児のコミュニケーション① 15 乳幼児のコミュニケーション②	16 アタッチメントと親子関係① 17 アタッチメントと親子関係② 18 演習② 19 自己と他者の理解① 20 自己と他者の理解② 21 遊びの発達と仲間関係① 22 遊びの発達と仲間関係② 23 メディアからの学習① 24 メディアからの学習② 25 保育カウンセリング① 26 保育カウンセリング② 27 保育カウンセリング③ 28 まとめ 29 レポート作成 30 レポート作成、提出
評価方法	
1 レポートによる評価 2 出席状況・受講態度による評価（演習等、講義への積極的な参加は加点対象とします）	
教材・準備	
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト「乳幼児心理学」 ・配布資料を綴るファイル ・参考文献は授業で適宜紹介する 	

教育目標
これまでの学びの総まとめとして、保育・幼児教育に携わる者としての自己評価を行います。それをもとに、自らの課題を解決するために、一人一人が主体的に実践・調査などを進めていく中で、職務遂行能力やコミュニケーション能力などを伸ばします。
授業計画（2コマの授業を15回行います）
<ol style="list-style-type: none">1 オリエンテーション、自己評価カルテの記入、アクションプランの作成2 アクションプランの作成3 アクションの遂行（調査、グループワーク、制作、練習など各自のプランに沿って）4 アクションの遂行（調査、グループワーク、制作、練習など各自のプランに沿って）5 アクションの遂行（調査、グループワーク、制作、練習など各自のプランに沿って）6 中間発表会①7 アクションの遂行（調査、グループワーク、制作、練習など各自のプランに沿って）8 アクションの遂行（調査、グループワーク、制作、練習など各自のプランに沿って）9 アクションの遂行（調査、グループワーク、制作、練習など各自のプランに沿って）10 アクションの遂行（調査、グループワーク、制作、練習など各自のプランに沿って）11 中間発表会②、プレゼンテーションプランの作成12 プレゼンテーションの準備・練習13 プレゼンテーションの準備・練習14 プレゼンテーションの準備・練習15 中間発表会③→最終プレゼンテーションはスクーリング時に行います。
評価方法
<ol style="list-style-type: none">1 実践プランの評価2 実践の評価（主体的に調査・制作等に取り組む姿を評価します）3 中間発表の評価
教材・準備
・資料やワークシートを綴じるファイル（種類は自由）

教育目標
自分が担任するクラスに障害のある子がいたら、あなたはどのようにしますか？その子や周りの子にどう関わり、どのような保育環境を整え、どう保育を展開しますか？この授業では、2年次に履修した「インクルーシブ教育・保育理論」の内容を踏まえ、保育現場における実践力を模擬保育を通して養います。
授業計画（2コマの授業を15回行います）
<ol style="list-style-type: none">1 オリエンテーション，指導案作成，模擬保育の準備2 指導案作成，模擬保育の準備3 模擬保育及びフィードバック4 模擬保育及びフィードバック5 模擬保育及びフィードバック6 模擬保育及びフィードバック7 模擬保育及びフィードバック8 指導案作成，模擬保育の準備9 模擬保育及びフィードバック10 模擬保育及びフィードバック11 模擬保育及びフィードバック12 模擬保育及びフィードバック13 模擬保育及びフィードバック14 模擬保育及びフィードバック15 模擬保育及びフィードバック，まとめ
評価方法
<ol style="list-style-type: none">1 指導案の評価（保育者は前週までに提出のこと）2 模擬保育における評価（メイン，サブ，子ども役）3 模擬保育の振り返りの評価4 最終レポートの評価
教材・準備
<ul style="list-style-type: none">・資料やワークシートを綴じるファイル（種類は自由）・エプロン等

教育目標(到達目標)	
<p>実習において必要な日誌の記入方法や指導案等の作成方法、実習生の心得えを習得等する。また、各学年に合わせた基礎・応用的な実習内容を習得する。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<p>1 全日日誌の書き方① 2 全日日誌の書き方② 3 全日日誌の書き方③ 4 全日日誌の書き方④ 5 全日日誌の書き方⑤ 6 全日日誌の書き方⑥ 7 全日日誌の書き方⑦ 8 部分的指導案の書き方⑧ 9 部分的指導案の書き方⑨ 10 部分的指導案の書き方⑩ 11 部分的指導案の書き方⑪ 12 部分的指導案の書き方⑫ 13 指導案の書き方⑬ 14 指導案の書き方⑭ 15 指導案の書き方⑮</p>	<p>16 実践演習① 17 実践演習② 18 実践演習③ 19 実践演習④ 20 実践演習⑤ 21 実践演習⑥ 22 実践演習⑦ 23 実践演習⑧ 24 実践演習⑨ 25 実践演習⑩ 26 実践演習⑪ 27 実践演習⑫ 28 実践演習⑬ 29 実践演習及⑭ 30 実践演習及⑮</p>
評価方法	
<p>授業態度・制作物等</p>	
教材・準備	
<p>授業ごとに配布する</p>	

教育目標(到達目標)

保育現場において必要な実践的技術(制作活動・絵本の読み聞かせ・社会的マナー・指導案作成・コミュニケーション術等)を習得する。また、各学年に合わせた基礎、応用的な保育実践内容を習得する。

授業計画(変更する場合があります)

1 実践演習①	1 6 実践演習及び発表①
2 実践演習②	1 7 実践演習及び発表②
3 実践演習③	1 8 実践演習及び発表③
4 実践演習④	1 9 実践演習及び発表④
5 実践演習⑤	2 0 実践演習及び発表⑤
6 実践演習⑥	2 1 実践演習及び発表⑥
7 実践演習⑦	2 2 実践演習及び発表⑦
8 実践演習⑧	2 3 実践演習及び発表⑧
9 実践演習⑨	2 4 実践演習及び発表⑨
1 0 実践演習⑩	2 5 実践演習及び発表⑩
1 1 実践演習⑪	2 6 実践演習及び発表⑪
1 2 実践演習⑫	2 7 実践演習及び発表⑫
1 3 実践演習⑬	2 8 実践演習及び発表⑬
1 4 実践演習⑭	2 9 実践演習及び発表⑭
1 5 実践演習⑮	3 0 実践演習及び発表⑮

評価方法

授業態度・制作物等

教材・準備

授業ごとに配布する

<病児保育> 講師：加藤 由美子

教育目標	
病児保育の意義を理解し、子どもに多くみられる症状や状態に応じた対応について、基礎的知識を習得する。	
授業計画（1週2コマの授業を15週行います。変更する場合があります。）	
1 病児保育の意義	9 子どもの発達段階に合わせた観察と関わり
2 病児保育の役割	10 症状別看病の方法(1)
3 病児保育の一日と遊び	11 症状別看病の方法(2)
4 病児保育の心理	12 病児保育中のリスク
5 病児保育におけるコミュニケーション	13 病児保育におけるリスクマネジメント
6 感染予防	14 緊急時の対応
7 乳幼児期に多い病気 その1	15 まとめ・終講試験
8 乳幼児期に多い病気 その2	
評価方法	
1 レポート及び試験についての評価	
教材・準備	
・テキスト：「病児保育」久住英二監修 英治出版	

教育目標（到達目標）	
<p>佐渡に関わる古今の文学作品に親しみながら、佐渡の風土について考え、文学が生活に身近なものであることを知る。作品を鑑賞した小論文作成を通して、文章力を磨き上げ、職業人として信頼される国語力を身につける。</p>	
授業計画（変更する場合があります）	
<p>1 長塚節① 『佐渡が島』から i 2 長塚節② 『佐渡が島』から ii 3 長塚節③ 『佐渡が島』から iii 4 長塚節④ 『佐渡が島』から iv 5 長塚節⑤ 『佐渡が島』から v 6 長塚節⑥ 『佐渡が島』から vi 7 今昔物語集① 「巻 26 の 15」 i 8 今昔物語集② 「巻 26 の 15」 ii 9 森鷗外① 小説『山椒大夫』 i 10 森鷗外② 小説『山椒大夫』 ii 11 森鷗外③ 小説『山椒大夫』 iii 12 森鷗外④ 小説『山椒大夫』 iv 13 森鷗外⑤ 小説『山椒大夫』 v 14 森鷗外⑥ 小説『山椒大夫』 vi 15 小論文課題①</p>	<p>16 高野喜久雄① 詩集から i 17 高野喜久雄② 詩集から ii 18 高野喜久雄③ 詩集から iii 19 高野喜久雄④ 詩集から iv 20 太宰治①『佐渡』 i 21 太宰治②『佐渡』 ii 22 太宰治③『佐渡』 iii 23 太宰治④『佐渡』 iv 24 太宰治⑤『佐渡』 v 25 太宰治⑥『佐渡』 vi 26 寺田美由記① 詩集から i 27 寺田美由記② 詩集から ii 28 寺田美由記③ 詩集から iii 29 寺田美由記④ 詩集から iv 30 小論文課題②</p>
成績評価方法	
<p>1 出席状況・受講態度による評価 2 毎時間のリアクションシートによる評価・ファイルの提出 3 小論文など提出物による評価 4 毎時間実施する小テストの結果</p>	
教材・準備	
<p>[毎時間必要なもの] ・教材、資料を綴じるためのA4ファイル。（年度当初に配布し、通年で使用する） ・国語辞典（電子辞書でも可）</p> <p>[授業準備] ・事前に配布する教材については、授業までに読み込んでおくこと。 ・提出すべき課題については、提出期限を厳守すること。</p>	

教育目標	
保育士になる為の基礎体力作り。また、体育を通じて保育現場で活かせる運動遊びを学びます。	
授業計画（変更する場合があります）	
1 幼児期の運動の重要性を再確認 2 スキャモンの発育曲線 3 体力測定① 4 リズム体操① 5 リズム体操② 6 保育現場で活かせる運動遊び① 7 保育現場で活かせる運動遊び② 8 外遊び・ネイチャーゲーム① 9 外遊び・ネイチャーゲーム② 10 なわとび遊び 11 なわとびの指導方法 12 ボール遊び 13 ボール運動の指導方法 14 バスケットボール 15 ソフトバレーボール	16 フットサル 17 バトミントン 18 キックベース 19 器械種目① 20 器械種目② 21 マット運動（補助の方法） 22 跳び箱（補助の方法） 23 鉄棒（補助の方法） 24 親子体操種目の紹介① 25 親子体操種目の紹介② 26 運動会種目の紹介 27 コーディネーショントレーニングの紹介① 28 コーディネーショントレーニングの紹介② 29 体力測定② 30 保育現場での運動は何ができるのか
評価方法	
1 出席状況、受講態度による評価 2 体力面、動きの質、体力測定などによる評価	
教材・準備	
動きやすい服と室内靴	

教育目標(到達目標)	
<p>○「声」についてのイメージを深め、発声法、表現法を習得する。</p> <p>○器楽(ピアノ演奏)の基礎的な演奏を理解し、演奏技術の向上を目指す</p> <p>○基礎的な楽典の理解</p> <p>○教育現場に必要な声楽曲、弾き歌いのレパートリーを増やし、歌い示することができる</p>	
授業計画 (変更する場合があります)	
前期	後期
36 あくしゅで今日は	55 かもつ列車
37 おててを洗いましょう	56 バスごっこ
38 おかたづけ	57 線路はつづくよ どこまでも
39 おべんとう	58 手をたたきましょう
40 はをみがきましょう	59 幸せなら手をたたこう
41 おはなし	60 大きなたいこ
42 おかえりのうた	61 おなかがへるうた
43 たんじょうび	62 ふしぎなポケット
44 ハッピーバースデー	63 かぜさんだって
45 アイアイ	64 せっけんやさん
46 ありさんのおはなし	65 サッチャン
47 犬のおまわりさん	66 パンドンタン
48 おうま	67 おもちやのマーチ
49 おつかいありさん	68 おもちやのチャチャチャ
50 おんまはみんな	69 ともだち賛歌
51 かわいいさくらんぼ	70 ふるさと
52 ぞうさん	
53 森のくまさん	
54 やぎさんのゆうびん	
評価方法	
<p>授業への積極的参加</p>	
教材・準備	
<p>音楽 ピアノ教本 声楽教本</p>	

<就職実務> 講師：見尾田 学

教育目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア形成について真剣に考え、自らの進路を切り開く。 ・社会（特に保育分野において）に出て働く上で必要な考え方、知識を身に付ける。 ・資格を生かせる職場・職業を広範囲に見学及び研究し、適職マッチングを図る。 ・社会のルールやマナーを知り、面接時・就職時において、必要な実践的スキルを身に付ける。 	
授業計画（変更する場合があります）	
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション① 2 オリエンテーション② 3 就職活動全般の話し 4 事業所見学先の検討及びアポイント 5 先輩保育士から学ぶ 6 自己分析シート記入・提出 7 就職ガイダンス① 8 就職ガイダンス② 9 事業所見学・研究①、グループ学習 10 事業所見学・研究②、グループ学習 11 事業所見学・研究③、グループ学習 12 事業所見学・研究④、グループ学習 13 事業所見学・研究⑤、グループ学習 14 事業所見学・研究⑥、グループ学習 15 事業所見学・研究⑦、グループ学習 	<ol style="list-style-type: none"> 16 事業所見学・研究⑧、グループ学習 17 保育士資格を活用できる職場研究 18 面接対策① 19 面接対策② 20 論作文対策 21 履歴書清書① 22 履歴書清書② 23 進路中間レポート作成① 24 進路中間レポート作成② 25 就職ガイダンス③ 26 就職ガイダンス④ 27 内定のお礼状の書き方 28 講義「どう生きるか」 29 総括レポート試験 30 総括レポート試験
評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> 1 レポート内容 2 修学態度（出席・授業態度・提出物など） 3 大学ノートのノートテイク及び感想内容 	
教材・準備	
<ol style="list-style-type: none"> 1 大学ノート1冊（「社会的養護」「子ども家庭福祉」のノートが残っていれば、それでも可） 2 必要に応じて配布する資料・テキストなど 	

教育目標	
○佐渡の伝統文化を地域の方から学び、子ども達が郷土愛を育める援助方法を身に付ける。	
○佐渡の大自然の中で、子ども達に豊かな感情や思考力が育める援助方法を身に付ける。	
授業計画（変更する場合があります）	
1	1 6
2	1 7
3	1 8
4	1 9
5	※佐渡の伝統文化をご教授頂く地域の皆さん 2 0
6	の予定に合わせて随時授業内容を決定致しま 2 1
7	す。 2 2
8	2 3
9	2 4
1 0	2 5
1 1	2 6
1 2	2 7
1 3	2 8
1 4	2 9
1 5	3 0
評価方法	
1 受講態度・出席状況による評価（積極的な取り組みは加点対象）	
2 毎回授業後のレポート・グループディスカッション等	
教材・準備	
<ul style="list-style-type: none"> ・配布物を綴じるファイル（自由） ・必要なものはその都度連絡します。 	

教育目標	
保育現場で役立つ技術を演習を通して学ぶ。 保育を展開するにあたり、保育士に必要な視点、関わり方などを理解する。	
授業計画（変更する場合があります）	
1. オリエンテーション ;2. グループワーク 3. 実践演習 4. 実践演習 5. 実践演習 6. 実践演習 7. 実践演習 8. 実践演習 9. 実践演習 10. 実践演習 11. 実践演習 12. 実践演習 13. 振り返り 14. グループワーク、レポート作成 15. 実践演習	16. 実践演習 17. 実践演習 18. 実践演習 19. 実践演習 20. 実践演習 21. 実践演習 22. 実践演習 23. 実践演習 24. 実践演習 25. 振り返り 26. グループワーク、レポート作成 27. 保育者として 28. 保育者として 29. グループワーク 30. まとめレポート作成
評価方法	
1. 出欠状況、受講態度などによる評価 2. 実践による評価 3. レポートによる評価	
教材・準備	
A4を綴じるファイル 随時、資料配布	